

1 学校教育目標

教育基本法・学校教育法に基づき、意欲をもち、知性・特性・体力の調和のとれた人間性豊かで、広く国際社会に生きる人間として、また、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる人間としての基礎的・基本的資質の育成を目指し、教育目標を定める。

○自ら考え行動する子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの「頭と心と体」のバランスのよい成長を目指す学校 (2) すべての子どもの学びが保障される学校 (3) すべての子供が大切にされる安心で安全な学校 (4) 教職員が生き生きと切磋琢磨し、組織として成果を示す学校 (5) 保護者や地域と協働して歩む学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯をよりよく、主体的に生き抜く力の基礎を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活の基盤となる「基礎的学力」(読み・書き・計算力)を定着させる。 ・各教科等の「基礎・基本」を習得させる。また、共通に必要な能力である「読解力」や「コミュニケーション力」等を育てる。 ・課題を解決し、よりよく生きるために必要な「自ら学ぶ力」(かかわる、課題をもつ、追究する、解決する、表現する)を育てる。 ○自己肯定感を高め、自分や他者を大切にできる、「思いやり心」「和の心」を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自他のよさに目を向けさせ、肯定的に認め合える態度を育てる。 ・様々な人とかかわり合う機会を設け、他者の気持ちや立場を想像できる力を育てる。 ・人権や生命の大切さについて正しく理解させ、いじめや差別を否定できる感性を育てる ・地域や郷土を愛し、助け合い協力し合って生き抜く態度を育てる。 ○たくましく生き抜くために必要な「健康」「体力」「精神力」「忍耐力」等を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の構え(返事、正しい姿勢、話を聞く態度、学習ルール等)を身に付け、自分を律する態度を育てる。 ・集団行動の規律(あいさつをする、時間を守る、整列する、譲り合う等)を身に付け、規律正しい集団生活を送る。 ・自分の体力の課題を知り、進んで運動や遊びに取り組み、体を鍛えようとする意欲と態度を育てる。 ・自分の健康や生活リズムに関心を持ち、よりよく改善しようとする意欲と態度を育てる。
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教師自身が諸感覚を磨き、そのすべてを駆使して、真の児童理解に努める。 (2) 教師自身が人権感覚に富み、温かさと厳しさを兼ね備えて児童の指導に当たる。 (3) すべての教師が研究・研修に取り組み、プロフェッショナルとしての授業力を磨く。 (4) ベテラン教師・中堅教師がこれまでの豊富な経験を生かし、若手教員の育成に当たる。 (5) 教師が保護者・地域と積極的にかかわり、三者が協働しながら児童の育成に当たる。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 現状

① 学校

〔よさ〕 創立133周年の歴史と伝統のある学校である。また、これまで区教育委員会コアスクール及び教員研修推進校として、先進的な教育活動に取り組み、足立区全体の教育活動をリードしてきた学校である。

〔課題〕 新入生の本校選択率はここ数年間、約60～70%と低迷していたが、今年度は約90%になり、区予想数を大きく上回っている。今後も、教職員がチームとして組織的に教育活動に取り組み、児童・保護者・地域の真のニーズに応える学校づくり目指していく。

② 児童

〔よさ〕 児童は、素直で穏やかな気風を残している。また、いわゆる「学級崩壊」と呼ばれるクラスもなく全クラスで落ち着いた学校生活を送っている。登校班や縦割り班遊びでは、高学年の児童が優しく低学年の児童の世話をする姿が見られる。

〔課題〕 足立区学力総合調査では、区内で中位の成績である。教科の面では、国語の読み取る力や算数の文章問題等に若干課題があり、また教科を問わず高学年ほど、達成率が低くなる傾向がある。さらに、基礎的な学力を含め、どの教科においても個人差の開きが見られる。読解力やコミュニケーション能力を伸ばすこと、個に応じた指導をさらに充実させ、一人一人に確実に基礎学力をつけることが課題である。

③ 教師

〔よさ〕 管理職を除く17名の教員は、主幹2名、主任教諭5名、教諭8名、主任養護教諭1名の体制である。教諭8名中7名は本校が初任校の教員経験1～6年目の教師であり、主幹を中心にベテラン、中堅、若手が互いのよさを認め合い、また経験豊かな講師陣も加わり、バランスよく学校を運営している。また、個々の教員は大変まじめで、教育への情熱をもった者が多い。

〔課題〕 日常の教育活動や校務分掌など、OJTの中で若手教員を育て、授業力と学校運営力を高めていくことが大きな課題になっている。特に、足立区教育委員会教員研修推進校として、本校だけでなく、区内の若手教員の育成に貢献するために、個々の教師の力量を一層高めることが求められている。さらに、個々の教員の豊かな個性を生かしつつ、組織として、チームとして、共通の目標に向かう中で、6年間を見通した子どもたちにとって最善の教育をめざしていく。

④ 保護者・地域

〔よさ〕 学校の教育活動に積極的に理解し協力していただける保護者や地域の皆様が多い。PTA、開かれた学校づくり協議会、図書館ボランティア、吹奏楽部保護者の会、お父参会、キッズパレット実行委員会等、保護者・地域の皆様には学校や児童のための自主的な活動を進めていく力と実績が十分にある。

〔課題〕 授業参観や保護者会では、学年が進むにつれて参加率が下る傾向がある。学校の教育方針を様々な場面や機会を通して発信し、学校で取り組むべきこと、家庭・地域で取り組んでいただきたいことを伝えていく必要がある。また、家庭生活においても、児童の自己肯定感を育てていくことが重要である。

(2) 前年度の成果と課題

重点的な取組事項－1 (児童の学習の構えを高める)

- 各学級において、互いのよさや学級のよさを発表しあったり、学びあう活動を積極的に取り入れたりしたことで自分を肯定的にとらえる児童が増えてきている。
- 学習や学校生活の規律を丁寧に指導することで、集団での話の聴き方、整理・整頓、あいさつがきちんとできる児童が増えている。正しい言葉遣いは今後の課題である。学校全体は大変落ち着いた状況を保っている。
- 自己肯定感、学習規律等、全体としては大変高まっているが、やはり個人差は否めない。課題を抱える児童へのより一層きめ細かな指導が必要である。

重点的な取組事項－2 (児童の基礎的・基本的な学力を向上させる)

- 校内研究において国語の読解力に焦点を当てて研究を充実させたことにより、読書に積極的に取り組む児童が増えてきている。また、漢字力については8割の児童が80点以上取ることができた。
- 算数の計算力は、低学年はティームティーチングにより、8割以上の児童が80点以上取ることができている。
- 高学年については、算数少人数習熟度別学習を実施しているが、計算力は80点以上が6割程度となっている。平均点にすると70点を超しているため、70点付近の児童の正確性を増すことと習熟度の低い児童の底上げを目指した少人数指導の在り方を検討する必要がある。
- 各学年2回以上、地域の人材・施設に協力いただいた授業や専門家を招いた授業を実施した。より具体的な課題をもち解決に向けて主体的に取り組む児童が増えている。

重点的な取組事項－3 (若手教員の授業力を育てる)

- 足立区教員研修推進校として各種研修会に数多くの研究授業を提供することで、若手教師が実践を通じた授業力の向上を行うことができた。
- 校内研究では国語科に教科を絞り、全担任が研究授業を行った。授業がわかったと評価する児童が95%に達し、大きな成果を収めた。

- 授業がわかったと評価する児童が多い反面、国語の授業が好きだと答える児童が高学年になるほど減少するので興味関心を高める指導法も合わせて研究していく必要がある。

重点的な取組事項－４（児童の健康・体力を向上させる。）

- 校庭遊具を活用した運動カードの作成や弘道アスレチックコースの設定等により、体育の授業や休み時間に全校的で共通の運動に取り組むことができた。
- 歩数計を活用し、日常生活や体育授業時の運動量を測定することで、運動や生活習慣への意欲が高まった。
- 年間を通じた体育的行事や新たな取組みにより、体力や健康の大切さを実感したり、体力や健康が高まったと感じたりしている児童が90%以上という結果となった。
- 学力同様、よく運動する児童とそうでない児童の差が大きい。家庭での運動や生活習慣も含め、家庭への啓発、日常化につながる取組等をさらに検討していく必要がある。

4 重点的な取組事項

	内容	実施期間				
		21	22	23	24	25
1	児童の学習の構えを高める。	○	○	○		
2	児童の基礎的・基本的な学力を向上させる。	○	○	○	○	○
3	若手教員の授業力を育てる。	○	○	○	○	○
4	児童の健康・体力を向上させる。(新)		○	○	○	○

5 平成23年度の重点目標

重点的な取組事項－1		児童の自信と学習の構え（学習環境や学習態度）を高める。	
A 今年度の成果目標		達成基準	
児童の自信と学習の構え（学習環境、言語環境、学習や集団行動の規律）を整え、落ち着いた学校生活の態度を育てる。		指導の通りによくい学級を引き続きゼロにする。	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	具体的な方策	
児童の自己肯定感を醸成し、自己肯定感を高める。	・90%以上の児童が、自己肯定感に関する問いに「あてはまる」と答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校生活の中で、教師自らが児童のよさに注目し、学級の中に広げていく。 ・発表の機会や話し合い活動を積極的に取り入れ、互いのよさに気づいていくようにする。 	
教室や身の回りの整理整頓をする（ロッカー、机の中、床のごみ、廊下の雑巾、靴箱等）	・90%以上の児童が、各学年の重点事項について、できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・専科ごとに学年・専科経営案に基づいて重点項目を決め、取り組む。 	
言語環境を整える（元気なあいさつ、正しい返事、発言の語尾、敬称をつける等）	<ul style="list-style-type: none"> ・90%以上の児童が、朝のあいさつをはっきりした言葉でできる。 ・80%以上の児童が、授業中の話し方や言葉遣いなど、正しくできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部が中心になり、朝会や集会等でよい例を示すなど指導を繰り返す。開かれた学校づくり協議会にも協力を求める。 ・学年に応じた共通の発言や発表等の話型を作成し、全校で取り組む。 	
集団行動の3つの約束を守る（時間を守る、きちんとあいさつをする、目で話を聞く）	<ul style="list-style-type: none"> ・95%以上の児童が、朝礼時に開始時間を守って、静かに集合することができる。 ・90%以上の児童が、生活時程を守って生活することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼時や集会時に、看護当番・生活指導主任・管理職が指導する。 ・教師自らが、時間を守り、1時間1時間を大切にす姿勢を示す。 	

重点的な取組事項－2		児童の学力を向上させる。
A 今年度の成果目標		達成基準
漢字力や計算力などの基礎学力や各教科の基礎的・基本的内容の定着及び、思考力・判断力・表現力など、自ら学ぶ力を育成する。		区、都、国の学力調査において、達成率、平均正答率を向上させる
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
漢字力や計算力などの基礎学力を確実に定着させる。	・年度末に基礎学力に関する調査を行い、各学年で身につける漢字や計算の問題を8割以上の児童が80点以上とれる。	・朝学習、補習教室、パワーアップタイム、土曜授業、宿題や家庭学習等のあらゆる機会を通して定着を図る。
読書活動を推進し、読解力の向上を図る。	・児童一人当たり、年間40冊以上の読書をする。	・朝読者や家庭での読書の機会を大切に、ページ数や冊数、推薦図書読破等の具体的な目標もたせ、読書活動の充実を図る。
国語や算数の基礎的・基本的な学力を伸ばす。	・平成24年度の足立区学力総合調査の国語科、算数科の達成率が区の平均達成率と比較し、2ポイント以上上回る。	・国語科を研究教科とし、研究授業を通して授業改善を行い、読む力を中心に書く力や話す聞く力を高めていく。 ・算数少人数指導の一層の充実を図る。 ・足立区基礎学習教室や土曜授業、夏季補習教室と連携して、基礎的・基本的な学力を定着させる。 ・校内のチャレンジカードの内容と活用方法等工夫し、効率のよい学習を行う。
学び合い、課題を解決する活動を通じて、自ら考え、解決する力を育てる。	・地域の人材や環境・施設等を活用した授業や優れた人物や専門家、文化との出会いのある授業を各学年において年間4回以上実施する。	・総合的な学習の時間や生活科、社会科、理科の授業等を中心に、体験的な学習、地域を教材とした学習活動、地域の方や専門家等を招いた授業、和の文化を取り入れた授業等を行う。 ・パソコンや電子黒板等の情報機器を積極的に活用し、情報の収集、選択、活用等の力を育てていく。

重点的な取組事項－3		若手教員の授業力を高める。
A 今年度の成果目標		達成基準
足立区教育委員会教員研修推進校としての研修機能を発揮しながら、本校の若手教員の育成を図る。		保護者、開かれた学校づくり協議会委員の授業診断において、4段階中3以上の評価を得る。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
区の教員研修会を実施し、質の高い授業を提供し研修の機能を果たす。	・初任研、10年目研等で、授業提供し、参観者から4段階中3以上の評価を得る。	・年度当初に区教委と協議し計画を立て、ニーズに応じた参考となる授業を提供する。また協議会において指導・協議にあたる。
授業を公開したり講師の指導を受けたりして、授業の質を高める。	・全教員が、1回以上の研究授業を実施する。	・校内研究や区小研等における研究授業や管理職による授業視察により、全教員が研究授業を実施し、指導を受ける。

<p>本校採用の若手教員及び、都教師養成塾生、教育実習生を授業力のある教員に育てていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の授業アンケートにおいて、「授業がわかった」という児童が90%以上とする。 ・主任教諭によるミニ研修会を6回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに中堅・ベテラン教員と若手教員が組み、教員同士の学び合いを活発にする。 ・管理職が授業観察を毎月実施し、観点を決めて具体的な指導を実施していく。 ・主任教諭による若手教員対象のミニ研修会を実施する。
--	---	--

重点的な取組事項－4 児童の健康・体力を向上させる。		
A 今年度の成果目標		達成基準
たくましく生きるために必要な健康や体力、正しい生活習慣を定着させる。		全国体力調査の結果を東京都の平均よりも上回る。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
全学年で体力テストを実施し、分析結果をもとに、児童に実態に応じた体力向上推進策を講じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に向けた新たな取り組み(体力向上KODOプロジェクトその2)を2つ以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童が「一人一運動」として、運動や遊びの種類や達成目標を設定し、年間を通して取り組む。 ・教員の体育実技向上のための実技研修を行い、体力や運動能力の高め方について学び合う。
健康や体力の向上に関心を持つ児童を育てていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケートにおいて、健康や体力の向上に関心を持っている児童の割合が90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストや日常の体育授業時、保健指導時の個々のデータや歩数計を活用した運動データ等を活用し、客観的に自分の健康や体力を振り返り、意欲や目標を持たせて生活をさせる。 ・「万歩計クラブ」を立ち上げ、日常生活習慣に関心を持たせる。
規則正しいリズムで生活できる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童と保護者アンケートにおいて、早起き・早寝・朝ご飯の約束ができている児童の割合が90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時刻を早め、朝の運動時間を確保しリズムのよいスタートを図る。 ・学校と家庭が取り組むべき学びの約束を保護者に提示し、啓発を図る。 ・学校便り等を活用し、定期的に啓発していく